



市民が守る日立の自然

— 花・樹木・緑・水・街並み —

日立市コミュニティ推進協議会の活動テーマの1つに「自然と生活環境をよりよくする活動」を掲げています。不法投棄対策や河川愛護活動、花を増やす運動にも積極的な支援や協力をしています。日立市内では美しい環境を創るために、自治会や町内会、子ども会や老人会、小学校区をエリアとした学区コミュニティ、公園や街路樹を守る会など様々な団体が地道な活動を続けています。

歴史ある諏訪梅林を大切に！

諏訪壮青年梅友会

諏訪梅林は諏訪壮青年梅友会(会長、西野幹雄)が草刈りなどの管理を行い、収穫した梅の実を地域の人に販売し、益金はボランティアの資金にしています。遊歩道や駐車場も整備され、史跡公園にふさわしい公園になりました。ここ数年、四季折々に訪れる人も多く、バーベキューや水遊びなど、晩秋まで家族やグループで楽しんでいる姿が多く見られます。

しかし、「賑わいの後の梅林は、見るも無残にゴミが散乱し、川の中には残飯や空きビンや空き缶などが投げ捨てられ、マナーの悪さが目立ちます。梅の実の収穫時期になると、袋を持って人の目も気にせず梅の実を盗んでいる人がいます。去年は梅の木が根元か

ら切り倒されました」と、会員の沼田



梅の香に誘われて

さんは嘆いています。

また、諏訪学区明るい市民の会の環境美化部員が、利用の多い夏には毎週月曜日にはゴミの収集をするなど、多くの人の努力によって梅林やその周辺が清掃されています。

3月頃には梅の花が芳香を漂わせ、大勢の観梅客で賑わいを見せることでしょう。歴史のあるこの地を、後世に残す為にも、マナーを守って大切に利用していきたいものです。

会員の沼田さんは、「安全確保のため信号機が欲しい。将来は梅林を川の向こう側まで広げ東屋などを作ってみんなりに親しまれる公園にできれば・・・」と話しています。

自分たちの街は自分たちの手で

多賀あんず並木育成会

大久保学区にある、多賀あんず並木育成会(会長鈴木智子、約会員40名)は、「花と実のなるあんず通りをつくろう、立派な街路樹の並木を市民の手づくりで育てよう」を合い言葉に、子ども会、老人会、婦人会、商店会、事業所などの各団体が一緒になって、昭和41年6月に設立されました。

あんずの植栽は昭和41年と45年の2回、400名が参加して行われました。以来34年にわたり、多賀あんず並木通り1,180m区間、あんずの樹193本の柵内の除草や歩道の清掃などを毎月1回行っています。現在は子ども会を主体に、地域住民や商店街の人たちと一緒に街路の環境美化に努めています。

子どもたちには作業を通じて自然の尊さを学ぶ機会になるように、そして、

自分たちの町は自分たちの手でという啓発活動も行われています。



春を楽しみに清掃作業

収穫したあんずの実を地域の人たちと分けあったり、よかっぺ祭りでジュースとしてふるまったり、地域と交流を深めふれあいを大切にしながら、あんず並木育成会の緑豊かな町づくりの活動がこれからも続けられます。

この歴史ある活動が認められ、昨年の4月に全国「みどりの愛護」のつどい功労者表彰団体で『功労者国土交通大臣表彰』を受けられました。

地域からの発想と実践

市民参加は新しい行政の流れの一つですが、日立市では実に35年前に市民参加のまちづくりがスタートしています。日立・多賀の両あんず並木誕生がその走りです。

21世紀のまちづくりは、「地域からの発想と実践」こそが原動力になります。市民との連帯や信頼関係を築くことが「市の立場」としての責任であると考えます。

都市計画課長 中島佳夫

コミュニティプラン策定

単会で着々進む

日立市コミュニティ推進協議会では、プランによるまちづくりを進めようと22の単会で「コミュニティプラン」の策定を行っています。

各単会ではプラン策定委員会を発足させ、全世帯へのアンケート調査を行い、住民のニーズや地域課題の把握につとめています。アンケート集計作業や読み込み、記録などの作業を通して、まちづくりを語ることになり、委員同士のコミュニケーションも図られています。それぞれ単会の特色を生かしたプランの完成が楽しみです。

コミュニティプラン策定の第1号は



まちづくりに生きる学区のプラン

塙山学区、続いて金沢学区、仲町学区と続き、平成15年までには全学区での完成を目指しています。現在は豊浦、会瀬、油繩子、坂下、助川、大みか、久慈の単会が2年がかりで策定の作業をすすめています。

コミュニティプランによる平成15年度からの単会のまちづくりに期待されます。

違反広告物

近年の急増に打っ手は？

日立市内いたるところに貼られたり置かれたりしている広告物をよく見かけます。無秩序に電柱やガードレールに貼られたもの、また、立て看板などは、街の美観を損うばかりでなく、市民に危害を与えるおそれもあります。

日立市では、昭和56年から違反広告物追放推進員を設置、市長が委嘱して、それらの除去に努めています。

各学区20名程度の推進員は、道路敷内(街路樹、街路灯、道路標識、ガードレール、信号機柱、電柱、橋、歩道橋など)に掲出されたテレクラ、サラリーローン、プロレスなどのはり紙、はり札、立看板などの除去にあたっています。

のぼり旗は対象外で、除去できません。また、「屋外広告物許可シール」の付いたものは、日立市が許可



許可シール

コミュニティあれこれ

協力のための三原則

人々が協力し何かをやろうとするとき、輪を絶やさないためにはどんなことに注意をすればよいのでしょうか。

1. 楽しく参加できる

人間関係が楽しいものでなくては活動は続きません。

2. 活動目標がその地域の人々のためになるものである

せつかくの活動も地域の人たちに感謝され、評価されたりするものでなければ、活動する人も張り合いがありません。

3. 活動目標がはっきりしていてそのための活動も適切である

活動目標が途中で変わってしまったり、決めた目標に関係ない活動をしたりしてはいけません。

コミュニティ推進者のつどい

防災意識の高揚

—ワークショップで考える—



グループ別に発表

日立市コミュニティ推進協議会で災害に強いまちづくりをしようと、防災部門の推進者のつどいを実施しました。

22のコミュニティから各3名の推進員が選出され、「防災意識の高揚を図るために」をテーマにワークショップで研究しました。①学区防災マップの活用を図るには、②防災リーダーの育成・養成を図るには、③地区住民の防災意識を高めるためには、の3項目についてグループ毎にまとめられました。

この結果は、来年度の事業に生かされる予定です。

した広告物です。

推進員の撤去実績を見ると、平成8年度約6,000件あったものが、9~11年度は3,000件前後に減少しましたが、昨年度は貼り紙が異常に増え、12,115件と4倍にも急増、今年度もすでに8,600件にのぼっています。

このままでは推進員の努力が報われません。何かよい対策はないのでしょうか。

違反広告物撤去実績 (件)

年度	貼り紙	ポスター	立看板	合計
8	3,351	813	1,912	6,076
9	570	944	1,633	3,147
10	187	591	2,181	2,959
11	910	556	1,537	3,003
12	10,256	357	1,502	12,115
13年度11月末	6,857	128	1,622	8,607

楽しみながら伝統を引き継ぐ

西町子ども鳴物 (仲町学区)

国指定重要有形・無形民俗文化財である「日立風流物」保存会西町支部が、子ども鳴物会を結成し、後継者育成に取り組んでいます。

子ども鳴物会を結成したのは、昭和54年と古く、現在も続いています。当初は保存会の経験者が、子どもたちを集めて笛や太鼓の指導をしました。「私たちは先輩たちのやっていることを見よう見真似で覚えてきたので、教えることは大変でしたよ」と指導者の千葉さんは話します。今では楽譜を作ったので子どもたちも覚えやすくなりました。

日立風流物保存会は昔からのしきたりで、祭りは町内の跡取り息子に伝えていくことになっていて、後継者不足に悩んでいました。この問題にいち早く取り組み、地域に住む子どもたち、男女を問わず集めて指導してきました。

現在、小学生23名、中学生11名合わせて34名の会員がいます。練習は月1回、第1日曜日に行います。年間約40回の練習をしますが、自然に大きい子が小さい子を指導するようになり、子ども同士のコミュニケーショ

ンができてきます。



各種のイベントに引っぱりだこ

地域の中で活躍しているさまざまなグループを紹介しています。今回は伝統芸能を、子どもたちへつなぐ活動を続ける2グループ取材しました。

練習以外にもミニキャンプ、クリスマス、新年会などお楽しみ会を開催、つながりを大切にしています。特に新春初打ちでは全員にお年玉が配られたり、また、表彰式なども行っています。「子どもたちが楽しみ、思い出を創りながら伝統芸能を引き継いでくれることを願っています。指導者も高齢となり後継者がいないのが心配です」と古河副支部長は話しています。

問い合わせ 福地 TEL21-1644

太鼓で子どもと心一つに

大沼おはやし会 (大沼学区)

「大沼おはやし会」は、昭和58年に結成されました。現在は子どもたちと一緒に毎年7月に行われる「大沼まつり」で活躍しています。

結成の数年後から、子どもたちにも体験してもらおうと、子ども会の役員を通して毎年子どもの公募を行ってきました。中学生になると多くの子どもは辞めていきますが、小学生の大半が続いています。



大沼おはやし

暑い真夏の練習には地域の人たちも応援、太鼓の音の一つにするための練習が続けられます。祭り当日は子どもたちの晴れ舞台、揃いのハッピー姿で子どもたちが大人と一緒に祭りを楽しみます。

「地域とのつながりもできてきました。上手くできない子どもが泣きながら頑張る姿に感動します。町の中で子どもたちが声をかけてくれたり、成長した子どもたちの姿を見るとうれしくなります。太鼓は心一つにしてくれます。子どもと一緒に活動する「おはやし」を、伝統文化として残すことが夢です」と代表の石川長利さん。

最近ではかねはた老人ホームにも太鼓で慰問に行くなど、活動の輪が広がっています。

問い合わせ 石川 TEL34-3697



日立の よいところ

御岩神社の三本杉

御岩神社は江戸時代に、水戸藩から常陸の出羽三山として崇高され、御岩山大権現として隆盛を極めました。その参道にある三本杉は、根回り、高さとも日立市内で最大の巨木です。幹が三又に分かれた所には、天狗が住んでいたという伝説もあります。



コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動する団体が22あります。それぞれの地域の特色を生かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくるための活動を続けています。今回は坂下地区市民運動をすすめる会を紹介します。

水と緑の歴史の里

坂下地区市民運動をすすめる会

地区の特長

日立市の一番南に位置し、住宅地と工業団地の先に田園地帯が広がっている地域が東小沢学区と坂本学区が一つとなった坂下地区です。かなり違う地域性をもつ2学区ですが、それぞれの良い所を生かせるような活動を目指しています。

地区内には久慈川、茂宮川、落見川の3本の川が流れ、緑が豊かで自然に恵まれた環境です。特に石名坂や南高野町には古墳や貝塚など数多くの史蹟があり、毎年開催している坂下ウォークは、毎回参加者が多く好評です。

会の構成

すすめる会には総務、調査広報、環境整備、文化、体育、青少年育成、防災、違反広告物追放推進、地域福祉の9つの部があります。部を担当する副会長と部会長は諸団体の代表が務め、役員会を構成しています。

17支部の支部長、副支部長のもとに193名の推進員がいます。



今年のカンナはどうか

会の運営については、活動内容を総務会から役員会、さらに役員・支部長会の順に練り上げて、実践に結びつけています。



青少年部の楽しいキャンプ

活動方針

豊かなふるさとの自然を愛し、ふれあいの輪を広げ、多くの住民が共働するまちづくりを目指しています。

特徴的な行事

【花いっぱい運動】 昭和48年から継続しています。各支部ごとに、子ども会、老人会の協力を得てカンナを育て、コンクールを実施しています。初夏から秋にかけて、地区のあちこちに赤や黄色のカンナのみごとな花が咲き、住民の目を楽しませてくれます。

【市民体育祭】 秋には2つの学区で、親睦を図る体育祭がそれぞれ実施されます。三世代そろって参加し、なごやかに一日を過ごします。

【防災訓練】 住民や地区内の消防団分団、田中内婦人防火クラブなどが参

加して、毎年実施しています。消火・救急訓練の他に、煙や地震の恐ろしさの体験も行っています。今年は、地区内の戸別受信機での広報が、新しい試みでした。

【坂下だより発行】 月1回発行、ガリ版刷りから始まって246号を数えました。地域の情報をリアルタイムで伝え続けています。

地区の問題点

常磐道のインターチェンジがあり、国道が3本も通っている坂下地区ですが、路線バスが走る区間が少なく、特に高齢者は不便を感じています。

また、坂下公民館と連携して活動していますが、スペースが狭いことが悩みとなっています。

今後の展望

長い間の念願だった公共施設(仮称:久慈川水系交流センター)の建設も決まりました。「地域住民の活動拠点となって、さらに活発な交流が期待できるでしょう」と西野美喜男会長は話しています。



会長 西野美喜男
問い合わせ 坂下公民館
TEL 52-4362
世帯数 4,306
人口 12,531
(平成13年10月1日現在)

編集後記

コミュニティ情報紙「こみこみ」は、各学区から推薦された委員が編集しています。身近な情報をお寄せください。

編集委員

大高弘、西村ミチ江、宇佐美吉郎、佐藤稔、高田瑞穂、柴田百恵、斎藤一男、露久保幸子、渡邊由美子、篠原正名、宇佐美栄次、大津和子